

見本例

黄色の部分は必須内容

一般社団法人全国文化財壁技術保存会 伝承者養成技術研修会 上級試験

テーマ	「重要文化財〇〇〇〇修復工事」	氏名	〇〇〇〇
工事名	重要文化財〇〇〇〇本殿修復工事		
工期	2012年10月～2013年2月		
施工期間	2012年12月～2013年2月（計32日間）		
現場情報	重要文化財〇〇〇〇 1700年創建 1998年重要文化財に登録		
現場住所	〇〇県〇〇市〇〇町3丁目1番地		
工事内容	三和土、漆喰壁補修（一部解体）		
発注元	株式会社〇〇工務店		

【修理背景（なぜ工事が必要だったか）】

本殿の老朽化が激しいため修復工事が行われた。三和土は玄関入り口付近が大きく削れており、上がり框側ではカビが見られる。内部の漆喰壁は大きな損傷は見られないが一部上塗りの剥がれ、ヒビが見られた。玄関の漆喰壁では下部に大きな腐食があり漆喰壁が落ち、内部の小舞が見えた状態になっている。

【劣化・腐食の主な原因】

三和土：入口付近は人の出入りが多いため経年劣化が激しい。上がり框付近の三和土のカビは地下より水が上がってきているためカビが起こり、腐食が激しいと思われる。

漆喰壁：内部は経年劣化による。玄関の漆喰壁はおそらく水気による腐食と思われるが、水気の出どころは不明。

【使用材料】

三和土

- ・土（京都深草で取れたもの）〇kg
- ・消石灰（〇〇社産）〇kg
- ・にがり（〇〇社産）〇kg

漆喰壁

- ・消石灰（〇〇社産）〇kg
- ・海藻（〇〇産）〇kg
- ・麻スサ（〇〇社産）〇kg
- ・貝灰（〇〇社産）〇kg

【施工方法】

三和土：入口付近の削れの深さ、広がりを確認し、表層のみで基層には劣化がないと判断。劣化部分全てを研り直し、給水調整後、材料〇〇：〇〇：〇〇（6：1：1）を使用し修復。2～3層に分けて叩き込み、地鍔で高さを調整。削れが深い部分は適宜骨材を混ぜた。乾燥後、スポンジや地鍔で表面を整え、必要に応じて磨く。

地下の水気によりカビが見られ腐食している部分は全てやり、再施工を行った。

漆喰壁：内部の漆喰壁は剥がれとヒビの補修のため一度補修部分の表面を削る。その後、材料〇〇と〇〇（3：4）を混ぜ下地調整を行い、材料〇〇：〇〇：〇〇（3：3：5）にて上塗りまで行った。玄関の漆喰壁は地面からの水気防止のため基礎石に防水加工を施してから施工。

【失敗例】

漆喰壁にて下地処理不足による上塗りの剥がれが起きてしまった。

そのほかにも～。

【対策】

下地処理の段階にて、刷毛にて表面処理を丁寧に行い、寒い時期だったため乾燥期間を〇日から〇日へ調節。

【仕上がりと評価】

三和土：今回の材料は～地域特有の〇〇土が～～～にがりの量は～～・・・。

漆喰壁：小舞に～～材料は～～・・・。

【今後の維持管理提案】

本現場は湿気による被害が多く見受けられたため、定期的な換気や通気口の設置等の湿気対策を推奨した。また漆喰壁では～～～～・・・。

【文化財の修理において注意する点】もしくは文化財の修理において考えるべき点

私は約 20 年文化財修理の現場に携わってきた。その中でも一般工事と文化財工事の大きな違いは〇〇〇〇という部分にあり、文化財修理工事において特に注意すべき点は〇〇〇だと考える。なぜなら～～～・・・。